「比較民俗研究」18. 2002／11

民間説話の生命の木
――浙江省現代狗耕田タイプの形態構造分析――

劉魁立※

概要

本稿は現代の浙江省に流布し出版されているすべての"狗耕田"タイプの28のテキストに対し，話型学的方法で共時的比較研究を行ったものである。このようにテキストの形態や構造を解きほぐし帰納しこれらのテキストの持つ形態構造上の法則をまとめた。この分析を通して，この話型はさらにいくつかの話型変体に分けられ，同じ話型からは中心モチーフ，モチーフ鎖などの重要なユニットをとり出すことができた。さらに具体的な分析を通し，話型，話型変体，モチーフなどの機能とメカニズムについても若干の理論的推断を下した。

【キーワード】民間故事　形態構造　場面タイプ　話型変体　モチーフ

狗耕田故事は中国の漢民族及び少数民族の各地域に広く分布しているタイプのひとつである。わが国の鍾敬文教授，劉守華教授などが研究をしているほか，韓国，日本でも，崔仁鶴教授，崔来沃教授，関敬吾教授，稲田浩二教授，伊藤清司教授等もこのタイプの研究に関わり，学術価値の高い論文を発表している。そしてこのタイプのさまざまな問題について，多くの発見と研究が提出されている。

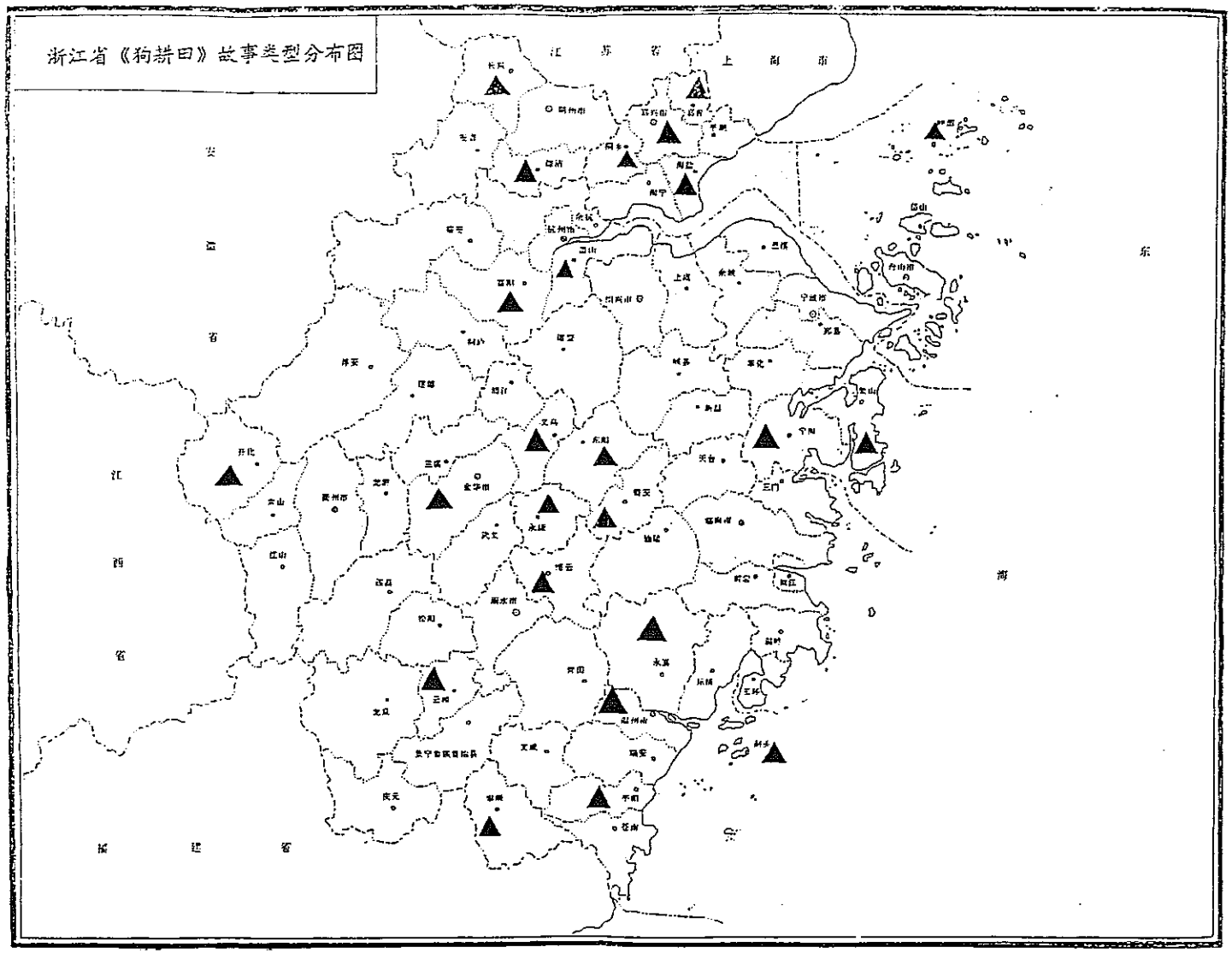
1980年代後半から90年代の初めにかけて，中国ではこれまで行われたことのない大規模な民間文学の採集記録活動が繰り広げられた。それは規模，範囲，人員，記録の忠実さから採集された作品の量まで，まったく未曾有のことであった。中でもこのタイプの記録は特に豊富で，四川省で出版された各県レベルの資料集だけで79編も見られる。

本稿は浙江省で行われたローラー式の採集活動によって新しく得られた狗耕田タイプの話のテキストを対象に，その形態構造的に分析を試みたものである。この研究は，共時的的範囲に限り，このタイプの歴史的発展の過程に対し，何らかの結論を求めたものではない。浙江省には県レベルの行政単位が約百箇所あるが，そこから出版された99巻の民間文学資料集の中から28編の該当タイプのテキストを得ることができた。この28編は24の県や区にまたがっている[ii]。(分布図参照) またこれらに1920年代に記録された同一タイプのテキスト5編を加え，通し番号を与えた[iii]。

中国の漢民族と少数民族の狗耕田故事は，その基本となる構成はきわめて簡単である。すなわち，兄弟が財産分けをし，弱いものは犬を得る。狗が田を耕す。弱いものはそれによってよい結果を得る。強いものが真似るが失敗する。というものである。この基本構成がその具体的な場面

※中国社会科学院民族文学研究所・中国民俗学会会長

浙江省《狗耕田》故事类型分布图



ではさまざまに変化し，豊かな世界を広げている。それぞれのテキストは各々独特の文化的内包と存在の根拠とを持ち，しっかりとした論理を内在させている。

(一)

浙江省のタイプのすべてのテキストは兄弟の財産分けから物語が始まる。伊藤清司教授はこのモチーフの社会的歴史的根源について（中日韓三国は過去において遺産の分配制度が異なっていた）傾聴に値する見解を発表している。また，正義を伸張し，弱者に同情すべきとか，不公平は正されるべきだといった，文化歴史的内包も，もちろん重要であるが，ここで上げる問題ではない。

形態と言う角度から見ると弱者は財産の分配に預からず，また農耕の頼りとすべき牛さえも与えられず，ただ取るに足りない犬を与えられただけであった。ここから説話の話題が引き出される。牛は犬と比べると重要なものであるが，この話における価値は犬と変わらない。例えば，牛郎織女（牛飼と織り姫）の話では兄弟が財産分けをしたときに弱者は牛だけを与えられている。また，20年代末から30年代初頭にかけて採集されたテキスト（text23）では三人の兄弟が財産分けをし，「長男はラバと馬，次兄は驢馬と牛，三男の末っ子は猫と犬をもらった」とある。このテキストではその後のストーリー展開において長兄は何の作用も及ぼさない。物語は次兄と三男のあいだで展開する。このような意味から言うと，あらゆるテキストにおいて分家のモチーフで牛が分配されることはまったく重要なことではなく，犬が分けられることが重要であると言える。なぜならば物語は狗耕田（犬が田を耕す）に続くからである。

私は崔仁鶴教授が「故事と民族－狗耕田故事の民俗学考察」において述べられている見解に賛同する。すなわち犬に田が耕せるかというような問題は討論に値しない[10]。私たちの研究では不必要であるということである。犬が田を耕せるとか木から元宝が落ちてくるとか，豆を食べて香のよい屁を放って病気を治すことができるなどということは，ある意味では似たような性質と機能を持つ。もし犬が田を耕すということがひとつの現実であり，超自然的な不思議な現象ではないとするならば，犬の飼い主が他の人と賭けをしてたくさんの財産を手に入れるという部分は，物語の論理に合わなくなってしまう。

私の手元にある狗耕田タイプのテキストの語り方は，簡単なものから複雑なものまでそれぞれである。しかしどのように発展しようとも，兄弟の財産分け，犬が田を耕す（あるいは他の労働，水汲み，臼挽き，狩猟等），弱者はよい結果を得，横暴なものはその報いを受ける，という基幹内容を離れることも，狗耕田という中心モチーフから離れることもできない。すべてのテキストはみなこの基幹内容と中心モチーフを廻って繰り広げられるのである。もしここから離れてしまったらそのテキストは別のタイプに分類されなければならない。

浙江省の28のテキストの分析を通して，私はより似ているもの同士グループができることに気づいた。こうして私はこのタイプをさらにいくつかに分け，これを話型変体と呼ぶことにした。同じ話型変体に属するものは，テキスト間のモチーフ及びモチーフの配列順序などきわめて多く

の共通点を持っていると同時に他のテキストとは違いがある。

(二)

浙江省に分布している狗耕田タイプに属する28の現代テキストと，比較のために1920年代に記録された5つのテキスト（合わせて33）の持つモチーフによって細かい表を作成した。これは非常に大きな表になったのでここでは示せないが，この表によって話型学的に比較研究を進めていくうちに，私は9つの話型変体に分けられることに気づいた。(他の地域のテキストも加えるとさらに多くの変体が得られようが，そこまでは手が回らないでいる）以下それぞれ分析しながら紹介する。

狗耕田話型変体1

①兄弟の財産分けで弟が犬を得る。

②犬が田を耕し豊作となる。

③兄が犬を借りるが，犬は田を耕さないのでこれを殺す。

④犬の墓から植物がはえる（あるいは墓に植物を植える)。弟はこれを揺らして豊かになる。

⑤兄がまねをしてひどい目にあう。

1920年代に発表されたあるテキスト（text33「狗尾草（えのころ草)」）は兄が殺した犬を地に埋め，犬は地にもぐったと嘘をつく。地上に埋め残されていた犬の尾がえのころ草に変わった，と語る。このテキストは物の起源伝説のような結末であるが，これはちょっと付け足しただけのものである。話全体の内容との実質的な関係は見られない。このテキストでは弟は犬が田を耕すことで豊作になるが，兄は何も得るところがない。本質的な意味において，これは他のテキストで兄が厳罰を受けるとか，罰せられて死んでしまうというのとほとんど等価である。墓に生えて来たえのころ草は，このタイプのほとんどに見られる，犬の墓に竹や木などの植物が生えて来るとか，あるいはそれを植えたという内容と呼応する。植物から金銀が落ちて着たり，犬の糞や毒蛇などが落ちてくるというモチーフには発展しないものの，その効果は同様である。

私の分析した33のテキストのうち，あるテキスト（text30「両兄弟」(一)）は犬を木の根本に埋葬したと語る。これは犬の墓から植物が生えたということの変型したものであろう。これ以外はみな犬の墓から植物が生えるか，植物を植えるという語り方になっている[6]。

この様に見てくると犬の墓に木が生えるというモチーフは，狗耕田タイプにとって，犬が田を耕すという中心モチーフに次ぐ重要なモチーフであると言えよう。これはすぐに弟がよい結果を得，兄が罰せられる場面に発展する。最もよく見られるのは弟が木または竹を揺すると金銀や元宝，銅銭などが落ちるというものだが，これは33のテキストのうち27例見出せる。現代のテキストに限ると28分の25になる。この内容を含まない3例のうちあるテキストは（texst9「耕田犬」）には犬が殺されてその墓から植物が生えるモチーフを持たない。このテキストでは犬は弟のところでは金をひり，兄のところでは毒蛇をひる。この毒蛇に兄は噛み殺されるのである。残る

2例の内のひとつは弟が木陰で涼んでいると力が強くなるというもので（text7「一只牛虱」），もうひとつは弟は犬の墓から生えて来た竹を切り，それで鳥かごを編みその籠の中に非常にたくさんの卵を得るというものである。（text8「両兄弟」）。

兄に対する懲罰は普通植物から犬の糞が落ちてくるとするが，毒蛇，毒蜂，毛虫とするものもあり（text3「兄弟分家」，text6「兄弟分家」，texst30「両兄弟」（一）など），兄（または嫂）は死なないとしても傷を負うことになっている。

狗耕田話型変体２

①兄弟の財産（牛）分け。弟は牛の虱を得る。

②牛の虱は鶏に食われ，弟は鶏を得る。

③鶏は犬に食われ，弟は犬を得る。

④狗耕田……

浙江省の現代のテキスト28例のうち10例（総数の35.7％）は弟が直接犬を得る（例によっては弟が犬を飼っている）が，残りの18例（総数の64％は牛を分けるにあたってまったく取るに足りない牛の虱を得る（牛の蚤など他の虫の例もある）。

私はこの牛の虱を得て，鶏や犬などに順次交換していく部分を“モチーフ鎖”と呼ぶ。形態学的角度から見ると，これは兄弟の財産分けで弟が犬を得るというモチーフの拡大だと考えられる。タイプインデックスによってはこのモチーフ鎖を必要以上に重視し，甚だしきは狗耕田故事を「有利な交換」（AT1655）に収めている。私はこの分類には議論の余地があると考える。その理由として三点挙げられる。まず，この部分は狗耕田タイプの基幹内容には全くならないこと。次に牛の虱を得てそれを交換するというモチーフはこのタイプの中心モチーフではないこと。さらに，本稿で後に言及するが狗耕田故事には性質上これと似たいくつかのモチーフ鎖が他にも挙げられる。もしこのような分類の仕方をするならば，狗耕田タイプのかなりの数のテキストは“偸聴話（聞き耳）”，“猴洞得宝（猿地蔵に近い）”，壳香屁（鳥飲み爺に近い）”，山魈帽（聴き耳頭巾）”などのタイプに分類されることになってしまう。

この部分は，牛の虱を鶏に，鶏を犬に，と交換のモチーフが二回繰り返されているが，得たものは牛の虱→鶏→犬の三つであり，これは民間説話でよく使われる，三回の繰り返しの手法が用いられているといえるだろう。交換のモチーフは非常に変化に富んでいる。鶏や犬を弁償するその飼い主はテキスト毎に異なっている。母方のおじやおばであったり，隣人であったり，弟が働きに出た家の主人であったり，挙げ句の果てにはただ鶏の飼い主，犬の飼い主とだけ言う。似たような例を数多く分析した結果，私は，民間説話作品の変化性はモチーフの活動性と変化性の上にあらわされると概括できると考える。

狗耕田話型変体３

①兄弟の財産分けで，弟は犬を得る。

②狗耕田

③弟は賭けをして勝つ

④兄はまねをして失敗する

⑤兄は犬を殺し……（後略）

通りがかりの人が，犬が田を耕せることを信じず，自分の財産を賭けるという，賭けのモチーフが一回出現するだけのテキストもある。(text4「神狗樹」text8「両兄弟」text9「耕田犬」text17「兄弟分牛」text24「狗耕田的故事」text26「哥弟分家」text27「黄狗耕田」text32「三兄弟分家」) 賭けに勝ったことによって手に入れるものは，米，綿，馬，塩，木材，銀など，さまざまである。テキストによっては，賭けの場面が二回繰り返される（text7「一只牛虱」text15「黄狗耕田」text30「両兄弟」(一) など)。手に入れる品物は米と綿，農地と建材などである。文化的意味から考えると，これらのものはみな，封建社会の農民生活の中で欠くことのできない衣食住に関するものや，その生活のよりどころとなる土地である。

狗耕田話型変体４

①兄弟の財産分けで弟は犬を得る。

②犬が田を耕し弟はよい収穫を得る。

③兄はまねをして失敗し犬を殺す。

④犬の墓から植物が生え，それによって弟は利益を得る。

⑤まねをした兄は失敗してこの植物を切り倒す。

⑥この植物で作った器物には不思議な力があり，弟は豊かになる。

⑦兄は模倣し失敗に終わる。

先に述べたとおり（狗耕田話型変体１参照）テキストによっては犬の墓から生えた植物が兄を懲罰したところで話が終わる。しかし他のテキストでは（text7「一只牛虱」text23「両兄弟」）では弟がよい結果を得，模倣した兄が懲罰されるというこのモチーフが拡大され，より深めて再現されているように感じられる。弟が切り倒された木で船を作ると，その船は自然に進み，音楽を奏で，魚たちが自分から寄って来て船倉に入るが，兄がその船に乗ると船は転覆して兄は溺れ死ぬ。(text7) あるいは弟が切り倒された木で臼を作り水を汲んでおくと金銀が流れだすが，兄がまねると毒蛇やヒキガエルが出てきて兄夫婦を噛み殺す。

墓から不思議な力を持った植物が生えてくるというモチーフは，このタイプにおいて非常に強い接着力を持っている。それはまるで生物体の腱のように他の体をつなげている。関係のあるテキストを並べてみると，この腱のようなモチーフはまた多岐性を持っている事がわかる。それはさまざまな道を通って話を進めていく。兄に切り倒された植物を使って米をとぐ笊を編むと，米を洗えば米が増え，金を洗えば金が増える。魚篭を編めば魚がたくさん取れるし，蒸篭を編めば米や肉や魚を出してくれる。鳥かごを編めば鳥の卵が手に入る。といった具合にこのモチーフは活発に変化する。それと同時にきわめて強い接着性をも備えており，話を進めていく力ともなっ

ている。他のモチーフとつながるときには，多岐的であり多くの選択肢を持っている。このモチーフのこのような機能はここに示した表現だけでも十分に分かるだろう。

狗耕田話型変体５

①兄弟の財産分け
②犬が田を耕し弟は利を得る。
③兄は模倣し失敗，ひどい目にあう。
④犬の墓から植物が生え，弟はそれによって福を得る。
⑤兄はまた模倣し，失敗。この植物を切り倒す。
⑥切り倒された植物で作ったものは弟に福をもたらす。
⑦兄は模倣して失敗し，これを壊す。
⑧弟は豆（または韮）を得て，これを食べるとよい匂いの屁を放つようになる。この屁で弟は富を得る。
⑨兄は模倣して失敗，処罰される。

この⑧，⑨の部分（モチーフ鎖）は狗耕田タイプの話には多く，現代の浙江省に分布する28のテキストのうち6篇（text8「両兄弟」text27「黄狗耕田」text12「狗耕田」text20「分牛」text17「兄弟分牛」text28「兄弟倆」）に見られ，本稿で取り上げている20年代のテキスト五編のうち3篇（text29「兄和弟」text31「両兄弟（二）」text32「三兄弟分家」）に見られる。このモチーフ鎖は異なる時代のテキストにおいてその占める比率を異にしているが，この違いが記録された時代に半世紀あまりの違いにあるため伝承に変化をきたしているのであるかどうかは、今のところ断定できない。いずれにせよ，このモチーフ鎖もまた基幹内容とのつながり具合はさまざまである。樹木が切り倒され，焼かれて灰になる。その灰を肥やしにした畑に豆を播き，その豆を食べてよい香りの屁を放つようになるもの（text27）もあれば，その間にまたいくつかの挿話を持つものもある。その仔細についてはここでは述べない。

狗耕田話型変体６

①兄弟分家
②狗耕田……
③犬の墓の植物が切り倒され……
④弟は兄に壊された器具を焼き，それによって福を得る
⑤兄は模倣して失敗し，家が焼けてしまう（自分が焼け死んでしまう）

植物を焼くということは，変体6においてすでに出現している。すなわち，弟は兄が切り倒した植物に火をつけて一粒の豆を焼き，その豆を食べる。その豆を食べ，香りのよい屁を売って福を得るのである。変体6では，器物に火をつけることそのものが話を発展させるモチーフになる。

弟は兄に壊された器物で火を起こしてよい結果を得るが，兄がまねをすると家や自分自身が焼けてしまうのである。(text10「両兄弟和狗的故事」text13「両兄弟」text16「両兄弟分家」text21「二兄弟」) また火事になるというモチーフ鎖は次に挙げる三つの変体にも存在するだけでなく，欠くことのできない要素となっている。このように見るとこのモチーフ鎖の接着性と場面進行力はかなり強いものと思われる。

狗耕田話型変体７

①兄弟分家

②狗耕田……

③墓に植物が生え……

④弟は壊された器具を焼き，それによって福を得る

⑤兄は模倣して失敗し，火事になる。

⑥弟は火事を消したあと，猿の宝を得る。

⑦兄は模倣して失敗し罰せられる。

text11「兄弟分牛」では弟が火事を消しに行き，燻されて顔が黒くなる。休んでいるとき猿たちがこれを菩薩だと思い，金銀や宝を持ってくる。text18「両兄弟」では弟が火事を消したあと木の上で休んでいると，その根元に猿や熊などの動物がやってきて宴会を始める。弟が樹上で小便をすると動物たちは天に穴があいたと思って慌てて逃げて行く。弟は残された酒器や金製品を持ちかえる。

狗耕田話型変体８

①兄弟分家

②狗耕田……

③墓に植物が生え……

④弟は壊された器具を焼き，それによって福を得る

⑤兄は模倣して失敗し，火事になる。

⑥弟は火事を消したあと，休んでいるときに盗み聞きをして宝を得る

⑦兄は模倣して失敗し罰せられる。

text19「両兄弟分家」では，弟が火事を消したあと崖の上で一息ついているときに，二人の老人（土地公と土地婆）の会話を聞いてしまう。それは金の倉とその鍵のありかについてだった。弟はそれを手に入れるが，兄はそれを真似して罰せられる。1920年代に浙江省奉化で語られていたテキストは（text29「兄和弟」）次のようである。兄は弟を殺そうと企み山へ行かせる。弟はそこで虎，豺，狼，猿などが風水のよい地について語り合っているのを聞き，福を得，兄は真似て獣たちに食われてしまう。

狗耕田話型変体9

①兄弟分家

②狗耕田……

③墓に植物が生え……

④弟は壊された器具を焼き，それによって福を得る

⑤兄は模倣して失敗し，火事になる。

⑥弟は火事を消したあと，休んでいるときに山魈を脅かして残された山魈帽を得て金持ちになる。

⑦兄は模倣して山魈に食われる。

text22「両哥弟分家」。(山魈は山にいる一本足の妖怪である。山魈の帽子を被ると姿が見えなくなるという。この山魈や山魈帽について民間では多くの話が語られている。)

このようにある話の中に別の話を含むものは複合昔話と呼び，その用語が便利であるためずっと使われているし今後も使われていくであろう。しかしこの文字には異なる話型が合わさったもの，という印象がある。ところが，狗耕田故事における“山魈帽”“遇猴獲宝（猿地蔵)”“聞き耳”などの一連の部分は既に独立の意義と形態を失っている。そのためこれを，異なる話型の接合したものとみなし，深く分析をおこなわないとすると，それは機械的に過ぎるといわねばならないであろう。狗耕田タイプに見られるような，他の話型と考えられる内容が部分として組みこまれて，多くのテキストを形成している具体的な状況については，別に系統的に踏み込んだ研究がなされなければならない。

以上9種類の話型変体は，現在行われ出版されている浙江省の全部の資料，28篇をまとめた結果得られたものである。もちろん全国的な規模で，漢民族以外の諸民族のものも合わせると，若干の修正や補足が必要になってくるであろう。しかしそれは既に本稿の範囲を越えている。

(三)

以上，我々が分析したテキストはそれが単純なものであれ，複雑なものであれ，その物語の進行は一本の線で描くことができる。モチーフは次から次へとつながって行っても，事件は単一で時間的に一本線上で進行する。text11「兄弟分牛」を例に取ると，

弟が牛の虱を手に入れる→虱は鶏に食べられ，弁償として鶏をもらう→鶏は狗に食われ，弁償として犬を手に入れる→犬が田を耕し，その効果は牛よりもよい→兄は犬を借りるが犬は田を耕さないので打ち殺す→犬の墓から竹が生え，弟がこの竹を揺らすと金銀が落ちてくる。兄が揺らすと糞便が落ちてくる→兄は竹を切り倒し，弟はそれで鶏の巣を作り，たくさんの卵を得る。兄が鶏の巣を借りると糞ばかり→兄は鶏の巣を壊すが，弟はいつもその一本だけで飯が炊ける。兄がまねると火事になる→弟は火事を消しに行き，燻されて真っ黒な顔になる。猿がそれを菩薩だと思い金銀を捧げる。兄がまねをし猿たちに罰せられる。

という具合にする。すなわち一本の直線で話の進行を表すことができる。これは他のテキストでも同様である。

ところで，私はこうして得られた28本の線を，共時的観点から，上に向かって伸びて行くように縦にして重ねてみた。すると，興味深い形が得られた。すなわち，一本ずつの電信柱のような線は重ねられると，四方八方へ枝を張った木のようになるのである。私は場面の変化を節として次のような図を作ってみた。皆さんのご批判を乞いたい。〈図１〉

この図からどのようなことが分かるであろうか。

まず，気がつくのはこのタイプの主体となっている基幹の部分である。ここには二つのモチーフ鎖がつながっている。すなわち“犬が田を耕す”と“犬の墓から不思議な力を持った植物が生える”であり，この二つがこのタイプを構成する中心モチーフである。この基幹部分はすべてのテキストに共通する。

次にこの基幹の上にいくつかのモチーフ鎖が“生え”ていることである。これらのモチーフ鎖の持つ意味は基幹におけるある段階と同じ高さにある。これは基幹内容のある部分を表しているともいえる。すなわちこの類のモチーフ鎖は基幹内容のある段階と同価だといえる。したがってこれには話を終わらせたり発展させたりする機能はない。私はこのようなモチーフ鎖を消極モチーフ鎖とよぶ。このようなモチーフ鎖は必ず基幹に戻ってこなくてはならない。図の中ではこの意味を矢印破線で表した。

また，私は物語を進める力を持つモチーフ鎖を積極モチーフ鎖ということにした。これは比較に使ったテキストの関節部分（あるいは結末になれる部分）に“生え”（つながって）てきたもので新しいテキストを作り出す。このような積極モチーフ鎖はその内容の末尾になれると同時にほかの積極モチーフ鎖をつなげてさらに新しいテキストを作り，新たな発展あるいは結末をつけることもできる。

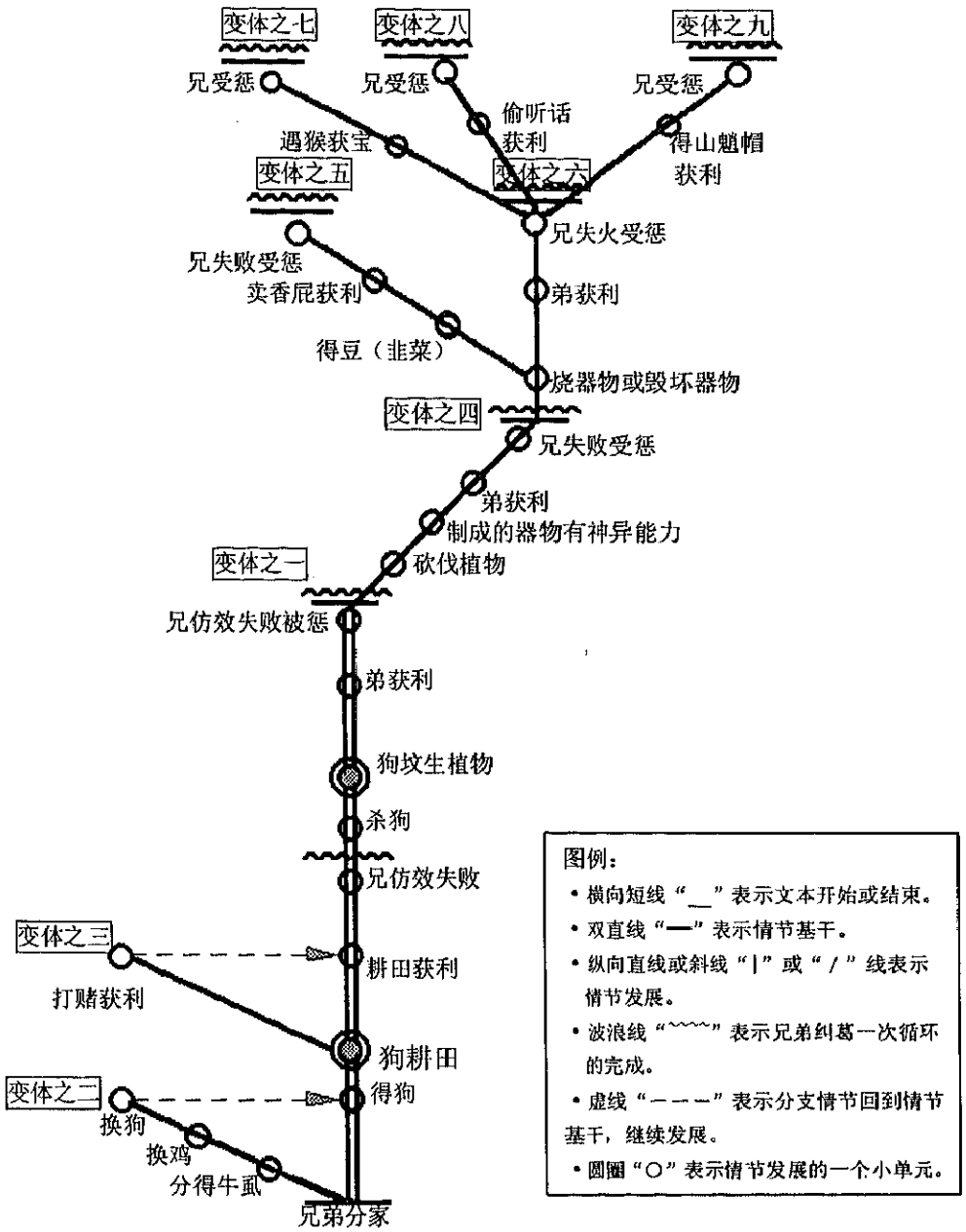
第4，新しいモチーフ鎖の接続と，新しいモチーフ鎖の性質と内容は，前のモチーフ鎖の最後の状態と関係がある。もしくはこの状態によって決定付けられるといってもよい。犬の墓に植物が生え，弟は福を得て兄は懲らしめられる。この場合，重心は墓に生えた植物にある。そのため次のモチーフ鎖はこの植物によってつながる。これが二つのモチーフをつなげる“腱”である。切り倒された植物で不思議な力を持つ器物を作る。弟は福を得て，兄は懲らしめられる。新しいモチーフ鎖はこの器物から“生え”る。それぞれのテキストにおけるモチーフ鎖の接続のし方もほぼ同様である。気をつけなければならないのは，腱によってはそのつなげる空間が比較的狭く，新しいモチーフ鎖が性質と内容において制限を受ける。それに対して，より多くの可能性を提供してくれている腱もある。このようなものは前のモチーフの結末部分に比較的大きい作業台があるようなものである。兄が罰せられて火事になってからひとつの真空のような状態が作られる。弟のこのような状況は（燻されて真っ黒な顔で），さまざまな物語発展の可能性を持っている。猿に出会って宝物をもらってもよいし，秘密の話を聞いてもよい。あるいは不思議なものを手に入

图 1

《民间叙事的生命树》

——浙江当代狗耕田故事类型文本的形态结构分析

附“狗耕田”故事类型的树型结构图



れてもよい。いずれにせよよい結果に終わる。

第五に，このような図を書く前には，狗耕田のそれぞれのテキストはみな一本線的構造を持っていると思ったが，このように共時的な話型の比較方法を運用してこの線を重ねて見ると，その全体像は樹木のような形になる。ちょうど立体映画館で映画を見るとき，肉眼ではその画面は平らであるが，特殊なめがねをかけるとその画面は立体的に見えるのに似ている。すなわちこのようなテキスト全体を背景としての共時的研究の方法は我々にこのような特殊なめがねを提供してくれる。

ここでdtext11をもう一度図式化してみると次のようになる。〈図２〉

ここで説明を加えると，先に〈図１〉で樹木的な図を描いたが，それは一種の架空のものである。昔話の話型というものはそもそも現実には存在しないものなのである。それは科学的研究の過程で現実に存在する資料を概括，帰納したもの結果であり，具体的なそれぞれのテキストの中で体現される。ここでは実在しない狗耕田タイプの総体をもとに，text11の構造をそこで得られた話型によって描きなおしたものである。もちろんこの図がtext11の構造的理解に何か大きな影響があるというわけではない。しかし私はこのような話型比較研究において内容の組織構造，話の発展生成の過程とそのメカニズムに対して理解，あるいはもっと広げて，民間故事の変化という特徴とそのメカニズムについて理解する上で，有益な視角と思考の筋道を提供してくれると思う。

木の幹には木の芽があり，ここから枝が生える。枝にもまたさらに枝が生える。こうして生き生きと茂った木というものができる。民間説話の生命の木の秘密を尋ねるのはきわめて難しい。しかしまた，なんと楽しいことであろうか！それはわれわれが，世々代々辛い暮らしを生きぬいてきた働く大衆の魂に触れるのにどんなに大きな助けとなるであろうか！

最後に第六として，このタイプはすべてのテキストが兄に対する処罰で話が終わっている。text33だけは少し違うが，それでも兄が犬を借りて田を耕すのに失敗しているのは兄が処罰されたことの変化と見てよいであろう。すべてのテキストが二人の兄弟の対立と葛藤の繰り返しを軸にして話を発展させている。たまには他の人物も登場するが，添え物にすぎない。

深層構造の角度から見ると内容の核心は二元対立である。兄は弟を抑えつけようとして，財産を与えず，貧乏にさせた。しかし弟はそのために福を得てより有利な地位を得，兄は失敗する。こうして第一回目の循環が終わる。兄は再びこの局面を打開して弟の有利な地位を破壊しようとする。しかし，弟はまたその不利な状態から福を得て，兄のたくらみはまた失敗する。これが第二回目の循環となる。

兄の失敗とは財産や犬，宝物の剥奪に失敗したことをさすのではない。これらのものを弟から取り上げることによって，弟の有利な地位を覆し，自分がその地位を得ようとしたことに失敗したことにあるのである。兄は何度も弟の有利な地位を覆そうとするが，ことごとく失敗し，弟は

图2

《民间叙事的生命树》

——浙江当代狗耕田故事类型文本的形态结构分析

附“狗耕田”故事类型文本11的树型结构图

常に福を得る。兄の弟に対する傷害はまったく無効であることを示している。

兄の立場から見ると，剥奪－失敗，再び剥奪－再び失敗……ということになる。我々の資料ではtext33が一度しか循環しないほかはすべて二回か二回以上の循環の後に結末がある。最も多いものは五回も繰り返される。

この，弟は常に剥奪され常に勝利し，兄は常に剥奪し常に失敗するという二元対立的構造はどのように図式化してよいだろうか。あるいは上に向かうジグザグか，あるいは上に伸びる螺旋か，または円の上に円を重ねていくのがよいのか。しかしこのような分析は既に本稿の目的とする形態構造の研究の範囲を越えている。

それはともかく，私はこの民間故事の生命力あふれる常葉の生命樹に深く感動しているのである。

〔付録〕

本稿に使用した「中国民間文学集成」浙江省各県巻本に収録されている現代の狗耕田故事テキスト28編と1920年代末期に収録された5編は次の通りである。便利のため通し番号を付した。

text1.「兄弟分家」，杭州市，『蕭山市故事歌謡諺語巻』，260-261ページ，蕭山市民間文学集成辯公室編，1989年6月。

text2.「両兄弟分家」，杭州市，『富陽県故事歌謡諺語巻』，425-426ページ，浙江省富陽県民間文学集成辯公室編，1988年10月。

text3.「弟兄分家」，『嘉興市故事巻』，582-583ページ，浙江文芸出版社，杭州，1991年。

text4.「神狗樹」，嘉興市，『嘉善県故事歌謡諺語巻』，295-299ページ，嘉善県文化局文聯文化館編，1989年3月。

text5.「水与牛虱」，嘉興市，『嘉善県故事歌謡諺語巻』，300-302ページ，嘉善県文化局文聯文化館編，1989年3月。

text6.「兄弟分家」，嘉興市，『桐郷県故事歌謡諺語巻』，306-307ページ，桐郷県民間文学集成辯公室，1989年10月。

text7.「一只牛虱」，嘉興市，『海塩県故事歌謡諺語巻』，462-465ページ，海塩県民間文学集成辯公室，1989年10月。

text8.「両兄弟」，嘉興市，『海塩県故事歌謡諺語巻』，466-468ページ，海塩県民間文学集成辯公室，1989年10月。

text9.「耕田犬」，『海塩県故事歌謡諺語巻』，469-471ページ，海塩県民間文学集成辯公室，1989年10月。

text10.「両兄弟和狗的故事」湖州市，『徳清県故事歌謡諺語巻』，334-335ページ，徳清県民間文学集成辯公室編1990年1月。

text11.「兄弟分牛」，湖州市，『長興県故事巻』，404-405ページ，長興民間文学集成編纂委員会，1990年7月。

text12.「狗耕田」，寧波市『寧海県故事歌謡諺語巻』，252-253ページ，寧海県民間文学集成辯公室

編 1988 年 9 月。

text13.「両兄弟」，寧波市『象山県故事歌謡諺語巻』，263-264 ページ，象山県民間文学集成辯公室編 1989 年 10 月。

text14.“付記”寧波市『象山県故事歌謡諺語巻』，265 ページ，象山県民間文学集成辯公室編 1989 年 10 月。

text15.「黄狗耕地」，舟山市，『嵊泗県故事歌謡諺語巻』，198-199 ページ，嵊泗県民間文学集成辯公室編 1989 年 2 月。

text16.「両兄弟分家」，温州市『甌海県故事歌謡諺語巻』，271-272 ページ，甌海県民間文学集成辯公室編 1989 年 12 月。

text17.「兄弟分牛」，温州市『永嘉県故事巻』，508-510 ページ，永嘉県民間文学集成辯公室編 1989 年 9 月。

text18.「両兄弟」温州市『洞頭県故事歌謡諺語巻』，236-239 ページ，洞頭県民間文学集成辯公室編 1988 年 4 月。

text19.「両兄弟分家」，温州市『平陽県故事歌謡諺語巻』，277-279 ページ，平陽県民間文学集成辯公室，県文聯編，1989 年 6 月。

text20.「分牛」，温州市『泰順県故事歌謡諺語巻』，325-326 ページ，泰順県民間文学集成辯公室編，1989 年 6 月。

text21.「二兄弟」，麗水地区『縉雲県故事歌謡諺語巻』，293-294 ページ，縉雲県民間文学集成辯公室編，1988 年 11 月。

text22.「両兄弟分家」，『雲和県故事歌謡諺語巻』，334-336 ページ，雲和県民間文学集成辯公室編，1989 年 3 月。

text23.「両兄弟」，金華市，『城区故事歌謡諺語巻』，275-276 ページ，城区民間文学集成辯公室編，1990 年 12 月。

text24.「狗耕田的故事」，金華市，『永康県故事歌謡諺語巻』，244-246 ページ，永康県民間文学集成辯公室編，1992 年 5 月。

text25.「両兄弟」，金華市，『東陽県故事巻』，370-373 ページ，東陽県民間文学集成辯公室編，1987 年 4 月。

text26.「割地分家」，『磐安県故事歌謡諺語巻』，306-307 ページ，磐安県民間文学集成辯公室編，1991 年 1 月。

text27.「黄狗耕田」，金華市，『義鳥市故事巻』，366-368 ページ，義鳥市民間文学集成辯公室編，1991 年 10 月。

text28.「兄弟倆」，衢州市，『開化県故事歌謡諺語巻』，162-164 ページ，開化県民間文学集成辯公室編，1988 年 12 月。

text29.「兄和弟」，『菜花郎』，82-109 ページ，林蘭編，上海北新書局印行，1930 年。

text30.「両兄弟」（一），『漁夫的情人』，83-99 ページ，林蘭編，上海北新書局印行，1930 年。

text31.「両兄弟」(二),『漁夫的情人』, 93-99ページ, 林蘭編, 上海北新書局印行, 1930年。
text32.「三兄弟分家」,『金田鶏』, 75-81ページ, 林蘭編, 上海北新書局印行, 1930年。
text33.「狗尾草」,『相思樹』, 9-11ページ, 林蘭編, 上海北新書局印行, 1930年。

i) 省のしたの行政単位。日本の郡にほぼ相当する。(訳者)
ii) この28編は本稿の末尾に, 1920年代に記録された5篇と共に通し番号をつけてあげた。本稿本文ではこの番号を挙げることとし, その出典については末尾の表を参考されたい。
iii) 文末一覧参照。なお, 本文中ではこの一覧の番号のみを挙げる。出典についてはこの一覧を参照されたい。
iv) 崔仁鶴「故事与民族－狗耕田故事的民族学考査」『民俗学故事研究』76頁, 新文社, 1994年。
v) 一例のみ犬の墓から植物が生えるとは語らない。弟が墓で供養をしていると, 椀の中の供物が金銀になる, とする。(text5「水牛与牛虱」)

新刊紹介

伊藤清司 監修・解説
『怪奇鳥獣図巻—大陸からやって来た異形の鬼神たち—』

古代中国に著された一種の地理誌の「山海経」について長年にわたって研究を積み重ねてこられた著者により, 中国・清時代に出回っていた「山海経」の絵図を下敷きにしながら, 作者は不明だが江戸時代に日本で描かれたと考えられる「怪奇鳥獣図巻」の解説が試みられた一冊である。

「山海経」には中国各地の山川に棲む怪異な姿の神々や妖怪が記録されているが, この中国生まれの怪獣奇鳥が,「怪奇鳥獣図巻」には76種類肉筆で描かれている。本著では「怪奇鳥獣図巻」に極彩色で描かれた, 中国渡来の怪神や妖怪が, 全てカラーで紹介され,「山海経」の記述に基づいて解説が加えられている。中国で描かれた「山海経存」の図譜が後に附されており, 中国と日本のイマジネーションの違いを確かめることもできる。

不可思議な鬼神までもが中国から取り入れられ, 日本でも好まれ描かれた点に中国からの影響の深さを今更に感じた。

(広田律子)

工作舎　2001年1月　定価3,200円